

Express5800/T110m-S, T110m, T110mバリューモデル ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意くださいことがございます。
誠に您所入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読いただきますようお願いいたします。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

● 本製品の各種マニュアルの入手方法について

本製品のユーザーズガイド、メンテナンスガイド、インストレーションガイド、BMC管理コンソールユーザーズガイドなどの各種マニュアルはEXPRESSBUILDER内に格納、または装置添付されています。なお、最新版のマニュアルは下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

- 「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択
- モデル名 (T110m-SまたはT110m) を記入し「モデル名で検索」を選択
- 検索結果からモデル名を選択
- 「製品マニュアル」を選択
- 該当モデルのユーザーズガイドを選択

● 本製品のファームウェアおよびソフトウェアの入手方法について

本製品の最新版の BMCファームウェアやBIOSファームウェア、ドライバーなどのアップデート情報は下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

- 「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択
- モデル名 (T110m-SまたはT110m) を入力し「モデル名で検索」を選択
- 検索結果からモデル名を選択
- 「修正情報・ダウンロード」を選択

● 最新のESMPRO/ServerManagerの入手方法について

以下のNECサポートポータルサイトからダウンロードしてください。

・ ESMPRO/ServerManager Ver. 7

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110069>

インストール後、ESMPRO/ServerManagerセットアップガイドを参照して必要な設定を行ってください。なお、ESMPRO/ServerManagerのアクセス方式がRedfishの場合は、ESMPRO/ServerManagerのリモートコンソール機能、およびコンソールログ設定を利用できません。

● 最新の装置情報収集ユーティリティの入手方法について

障害解析に必要な情報を採取できるようにするために、装置情報収集ユーティリティを最新版へアップデートしてください。装置情報収集ユーティリティは、障害発生時にOS上からシステムイベントログ (SEL) などを採取するツールであり、障害解析に必要です。最新版へアップデートしない場合は障害発生時に必要な情報が採取できない場合があります。

[装置情報収集ユーティリティの最新バージョンおよび、ダウンロード先]

<https://www.support.nec.co.jp/GuidanceCategoryProductSearch.aspx>

その他

- 装置情報収集ユーティリティ
- 装置情報収集ユーティリティ (Windows版 Ver 3. x. x)

● 低温環境での運用について

本製品には、環境温度の低温異常を検出した際に、ESMPRO/ServerAgentServiceがOSを自動的にシャットダウンする機能があります。OSのプリインストール構成で出荷された場合、本機能は無効化されていますが、以下操作により意図せず有効化される場合があります。



CBZ-062978-001-08

- ・ EXPRESSBUILDERを用いてWindowsおよびESMPRO/ServerAgentServiceをインストールした場合。
- ・ Webに公開されている最新版のWindows向けESMPRO/ServerAgentServiceをインストール/アップデートインストールした場合。

低温異常を検出した際に自動的にシャットダウンを行う必要がない場合、以下URLに公開されている設定変更パッチを適用してください

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107685>

● BMC設定の初期化について

- ・ オフラインツールメニューの[BMC] - [Configuration Initialization]でBMC設定を初期化する場合、初期化した後、他の設定は行わず、オフラインツールを終了してください。オフラインツールを終了することでシステムが再起動されます。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。
- ・ BMC管理コンソールの[メンテナンス] - [工場出荷時デフォルトのリストア]でBMC設定を初期化する場合、初期化した後、システムを再起動してください。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。

● BMC管理コンソールで表示される電圧値について

本製品がアイドル状態の時、BMC管理コンソール上でセンサ「P_VCC_CPU」の値が0になる場合がありますが、これは正常な値です。

● 仮想リムーバブルディスクのドライブレターの変更について

Windows OSの[ディスクの管理]画面で仮想リムーバブルディスクのドライブ文字を変更しようとすると、“ドライブ文字とパスの変更”がグレーアウトして選択できない場合があります。

このような場合は、以下の手順でドライブ文字を変更できます。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のコマンドを実行し、diskpart を開始します。
diskpart
3. 以下のコマンドを実行し、ボリュームの一覧を表示して、ドライブ文字を変更するボリュームのボリューム番号を確認します。
list volume
4. 以下のコマンドを実行し、ドライブ文字を変更するボリュームを選択します。
select volume=n ※n：ドライブ文字を変更するボリュームのボリューム番号
5. 以下のコマンドを実行し、選択したボリュームにドライブ文字を割り当てます。
assign letter=l ※l：ボリュームに割り当てるドライブ文字
6. 以下のコマンドを実行し、diskpart を終了します。
Exit

● BIOS SETUPのDMA Control Guaranteeメニューについて

BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] - DMA Control Guarantee からカーネル DMA 保護機能を“Enabled(有効)”、または“Disabled(無効)”に設定できます。

「カーネルDMA保護機能」については以下をご参照ください。

<https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/information-protection/kernel-dma-protection-for-thunderbolt> ※(英語)

- ・ 本設定は“Enabled” (default設定) のままでご使用ください。
OSを新たにインストールする場合は、本設定が“Enabled”であることを確認してからインストールを行ってください。
- ・ 運用中に下記のMicrosoftの情報に記載されている問題が発生する可能性があります。
該当する問題が発生した場合は、本設定を“Disabled”に変更してください。
<<https://learn.microsoft.com/en-us/troubleshoot/windows-server/performance/stop-code-driver-verifier-dma-violation>>
※本設定を“Disabled”に変更しても改善されない場合は、BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] -VT-d を“Disabled(無効)”に変更してください。

- **BMCファームウェアのリモートメディア機能にて、ファイル共有サーバー上のイメージファイル**を仮想メディアとして使用時にWindowsの「ディスクの管理」で同一のボリュームが2つ表示される場合について
BMC管理コンソールのメディアリダイレクション設定で、ファイル共有サーバー上の仮想イメージファイルを読み込ませてホストのWindows OSに認識させると、「ディスクの管理」ツールで同一のボリュームが2つ表示される場合があります。本問題は、表示だけの問題であり、現象が発生した際には、画面の操作タブから「最新の情報に更新(F)」を実施すると正常に表示されるようになります。
- **N8103-235 RAIDコントローラにて、Starter Packでドライバー適用後の再起動にて「シャットダウンしています」の表示が数十分続く場合について**
N8103-235 RAIDコントローラ(2GB RAID0/1)にWindows Server 2019およびWindows Server 2022を新規インストール後、Starter Packからドライバーを適用し、再起動を行うと「サービスをシャットダウンしています: Windows Modules Installer。」という画面表示がしばらく切り替わらない現象が発生する場合があります。この現象が発生しても処理は停止していないため、そのままお待ちください。
60分以上待っても画面が切り替わらない場合は、巻末の「ファーストコンタクトセンター」まで連絡してください。
- **BMCのShared LAN機能について**
Shared LAN機能を使用する場合は、必ず以下の手順に従って設定を行ってください
 - ・ LAN1ポートをネットワークに接続します。
 - ・ オフラインツールメニュー (Server Configuration Utility) を開きます。
 - ・ [BMC] - [Configuration] - [Network] - [Management LAN]の順に選択します。
 - ・ [Management LAN]の設定をShared LANに変更します。
 - ・ 設定後、60秒待ってからBMCリセットを実施してください。
- **BMC管理コンソールでの仮想KVMビューアの使用について**
BMC管理コンソールで仮想KVMビューア使用時に管理PCでWindowsキーを入力した場合に正しく動作しない場合があります。Windowsキーを使用する場合は、仮想KVMビューアの「Send Keys」メニューから「Right Windows Key」または「Left Windows Key」を選択してください。
- **BMC管理コンソールでの設定バックアップ/リストアの使用について**
 - ・ 設定のバックアップ:
BMC管理コンソールで「設定のバックアップ」を行う際、『認証』にはチェックを入れないでください。「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」で設定を変更している場合は、その設定内容を記録し保管してください。
 - ・ 設定のリストア:
必要に応じて「設定のリストア」を行った後、記録した内容を参照して「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」の再設定を行ってください。
 - ・ その他の設定項目:
上記以外で「設定のバックアップ」の対象外となっている設定項目については、最新版のBMC管理コンソールユーザーズガイドの「5. リモート管理コンソールの使い方」の「設定のバックアップ/リストア」をご参照いただき、必要に応じて設定内容の記録と再設定を行ってください。
 - ・ BMC管理コンソールユーザーズガイドの入手方法:
最新版のBMC管理コンソールユーザーズガイドの入手方法は、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。
- **バックアップ・リストアツール(EXPRESSBUILDER内の「BIOS/BMC Configuration Backup/Restore Tool」)の使用について**
バックアップ・リストアツールでは装置に発生したメモリアンコレクタブルエラーおよびメモリアンコレクタブルエラーのメモリエラー情報もバックアップ、およびリストアします。

メモリエラーが発生している装置でバックアップを行った場合、リストアした装置にメモリエラー情報が引き継がれるため、リストア後は下記を実施してメモリエラー情報をクリアしてください。

- ・ BIOS SETUPの[Advanced]-[System Agent (SA) Configuration]-[Memory Configuration]-[Memory Retest] を[Yes]に設定
- ・ BIOS SETUPの[Advanced]-[System Agent (SA) Configuration]-[Memory Configuration]-[Memory C-Error Retest] を[Yes]に設定
- ・ [Save & Exit] - [Save Changes and Exit] して再起動

● BMC管理コンソールでのシステムインベントリにて表示されるL1キャッシュについて

BMC管理コンソールのシステムインベントリに表示されるプロセッサ情報のL1キャッシュは、命令キャッシュのサイズを示しています。L1データキャッシュのサイズを確認するには、以下の手順に従ってください：

- ・ BIOSセットアップユーティリティ (SETUP) を開きます。
- ・ [Advanced] - [CPU Configuration]の順に選択します。
- ・ L1 Data Cacheの項目でサイズを確認します。

なお、OSのタスクマネージャーで表示されるL1キャッシュは、命令キャッシュとデータキャッシュの合計サイズが表示されます。

● 「ネットワーク インターフェイス“(デバイス名)” はリセットを開始しました。」というWindows ログについて

OSが高負荷状態時、Windowsログに、「ネットワーク インターフェイス“(デバイス名)” はリセットを開始しました。」という警告のイベント(ソース:NDIS、ID:10400)が登録されることがあります。

- ・ デバイス名が、“AMI Remote NDIS6 based Device”の場合：

BMC ファームウェアのアップデートに使用するAMI Remote NDIS6 based Deviceが一時的に使用できなかったことを示しますが、自動的に復旧しているため運用には支障ありません。

- ・ デバイス名がオンボードLAN(Intel(R) I210 Gigabit Network Connection)、または、LANカードの場合：

ネットワーク接続が一時的に中断し、通信に失敗している可能性があります。自動的に復旧しているため運用には支障ありません。頻発する場合は、高負荷状態を発生させているアプリケーションの観点で調査し、OSの負荷軽減を実施してください。

● オンボードRAID コントローラーの使用時の通知について

オンボードRAID コントローラーを有効とし、ホットスワップ対応の3.5型HDDケージまたは2.5型HDDケージを使用したRAID構成で「初期化」や「ボリュームデータの検証」が実行された場合、システムイベントログ (SEL) に以下の内容が登録されます。また、Global HDDランプ2とDISKランプ2が点滅しますが、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

イベントジェネレータ : 10h

イベント内容 : デバイスベイ 情報

Rebuild/Remap in progress

イベントジェネレータ : 10h

イベント内容 : デバイスベイ 情報

Rebuild/Remap in progress

OSがプリインストールされた装置の初回電源投入後、または、EXPRESSBUILDERを用いてOSをセットアップした後に、バックグラウンドでRAIDの初期化が動作する場合があります。この場合、OS起動直後、Global HDDランプ2とDISKランプ2が約5秒間点滅しシステムイベントログ (SEL) が登録される場合がありますが、動作上の影響はありません。

● オンボードRAID コントローラー使用時の注意事項について

オンボードのRAID コントローラー構成かつ、SATA 光ディスクドライブ接続構成において、以下の操作を行った場合、システムのイベントログにソース:iastorE、ID:4155の警告メッセージが登録されますが、システム動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

警告メッセージが登録される操作:

- 光ディスクの取り出し
- CD-RまたはCD-RWのブランクメディアへのアクセス
- CD-RW 媒体の消去

● **セキュアブート証明書リセット後の復旧手順について**

セキュアブートが有効に設定され、以下の更新プログラムが適用済みのWindows Server環境においてメンテナンスガイドに記載されている「BIOS設定 (NVRAM) のクリア」または「Enroll All Factory Default Keys」を実行した場合、セキュアブート証明書が工場出荷時設定に戻るため以下の事象が発生する可能性があります。

対象Windows Server OS環境/更新プログラム

- ・Windows Server 2019 : KB5068791 (2025年11月11日以降)
- ・Windows Server 2022 : KB5066782 (2025年10月14日以降)
- ・Windows Server 2025 : KB5066835 (2025年10月14日以降)

事象

- ・POST終了後に「Secure Boot Violation」画面が表示され、OSが起動できない。
- ・Windows Server OS起動時に、BitLocker回復キーの入力を求められる。

「BIOS設定 (NVRAM) のクリア」または「Enroll All Factory Default Keys」を実行し、上記事象が発生した場合は、以下の2つの手順を実施し、復旧してください。

1. セキュアブート証明書の更新について

以下の資料を参照し、「4. セキュアブート証明書の更新方法」の手順を実行してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140110352>

2. CVE-2023-24932 (セキュアブートのセキュリティ機能のバイパスの脆弱性) の軽減策有効化後に発生する問題と対処方法について

以下の資料を参照し、「6. 復旧方法」の手順を実行してください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140110302>

● **Express5800/T110m-S、T110mユーザーズガイドの記載について**

ユーザーズガイドに記載の以下の部分を読み替えてください。

1章 概要 → 5.5.3 Global HDDランプ1,2

<ユーザーズガイドの記載>

Global HDD ランプは、内蔵のハードディスクドライブまたは光ディスクドライブの状態を示します。

<読み替え>

Global HDD ランプは、内蔵のハードディスクドライブまたは光ディスクドライブの状態を示します。

オンボードRAIDコントローラーを使用した3.5型Fixed HDDケージ構成において、ディスクの故障やビルド状態を確認するためには「Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ」をご利用ください。

【ご注意】

ここからの注意事項は、本体装置のBMCファームウェア、BIOSファームウェア、EXPRESSBUILDERのバージョンにより対象が異なります。ご使用の本体装置のファームウェアはBIOSセットアップユーティリティで確認できます。EXPRESSBUILDERのバージョンはEXPRESSBUILDERを起動することで確認できます。詳細はメンテナンスガイドを参照してください。

対象となるBMCファームウェア、BIOSファームウェア、EXPRESSBUILDERのバージョンは下記です。

1. BMCファームウェアのバージョン00.90、00.92が適用された本体装置の注意事項
2. BMCファームウェアのバージョン00.90、00.92、00.97が適用された本体装置の注意事項
3. BMCファームウェアのバージョン00.90、00.92、00.97、01.00が適用された本体装置の注意事項
4. BIOSファームウェアのバージョンF03が適用された本体装置の注意事項
5. BIOSファームウェアのバージョンF03、F04が適用された本体装置の注意事項
6. BIOSファームウェアのバージョンF03、F04、F05が適用された本体装置の注意事項
7. EXPRESSBUILDER バージョン : 7.10-022.01が適用された本体装置の注意事項

【対象バージョンと注意事項】

1. BMCファームウェアのバージョン 00.90、00.92が適用された本体装置の注意事項

● 電力監視機能、電力制御機能について

ユーザーズガイド1章に電力監視機能、電力制御機能について記載がありますが、本製品で未サポートとなります。そのため、以下のような事象が発生する場合があります

・ESMPRO/ServerManagerにおける消費電力制御に関するメニューがエラー表示

- 「リモート制御」タブの「電力管理」 - 「電力測定」にて、測定開始を行うとステータスが測定失敗となる。
- 「リモート制御」タブの「電力管理」 - 「ECO設定」 - 「消費電力制御」を選択すると、「マネージメントエンジン情報の取得に失敗しました。」と表示される。
- 「リモート制御」タブの「電力管理」 - 「ECO設定」 - 「Suspend Periods設定」を選択すると、「マネージメントエンジン情報の取得に失敗しました。」と表示される。

・オフラインツールにおける消費電力制御に関するメニューがエラー表示

- 「Server Configuration Utility」の「ECO」 - 「Statistics Values」、または「Configuration」を選択すると、「ERROR! The Management Engine information could not be obtained.」と表示される。
- 「Server Configuration Utility」の「ECO」 - 「Clear NM Configuration」にて設定クリアを実行すると「ERROR! Failed to initialize the ECO configurations.」と表示される。

● センサ故障のログについて

以下のログがシステムイベントログ (SEL) に登録される場合があります。

センサ故障が登録されるセンサは、Processor1 Power (センサ番号 29h)、CPU Temp (センサ番号 A0h)、CPU Margin (センサ番号 A2h)、PCH Temp (センサ番号 A6h) です。

センサ故障 発生

I2C バス上のデバイスエラーを検出した

センサ Owner ID: 10h

センサ番号: 29h、A0h、A2h、A6h のいずれか

OSのシステムイベントで確認する場合、ESMPRO/SASが登録するセンサの異常情報では、SELダンプの最後の値が対象のセンサ番号を示します。

例：SELダンプ：4A0002538AE765200004F68A73A120A2_ の場合、センサ番号はA2hです。

これらのイベントはサポートしていない電力監視機能によって発生しており動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

オフラインツールにて通報機能を設定する場合、「Server Configuration Utility」 - 「BMC」 - 「Configuration」 - 「SNMP Alert」 - 「Alert Level」の「Sensor Failure Critical」（センサ故障）については「Disable」（無効）にしてください。

- **T110m-S 内蔵バッテリー搭載構成で瞬電や停電発生時に登録されるセンサ故障のログについて**
内蔵バッテリー搭載構成でAC供給が絶たれた際、従来製品とは異なり下記4つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。
センサ故障が登録されるセンサは、POWER(センサ番号:2Ch)、PSU1 Temp(センサ番号:32h)、Power Supply 1(センサ番号:61h)、PSU FAN1(センサ番号:70h)です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID:10h

センサ番号: 2Ch、32h、61h、70h 4つ

- **冗長電源構成(電源ユニット2台搭載)で、本体装置が電源ONのまま電源ユニットを取り外した際に登録されるセンサ故障のログについて**

本体装置が電源ONのまま電源ユニットが取り外された際、従来製品とは異なり下記3つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

- ・ 電源ユニット1の場合、センサ故障が登録されるセンサはPSU1 Temp(センサ番号:32h)、Power Supply 1(センサ番号:61h)、PSU FAN1(センサ番号:70h)です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 32h、61h、70h 3つ

- ・ 電源ユニット2の場合、センサ故障が登録されるセンサはPSU2 Temp(センサ番号:3Bh)、Power Supply 2(センサ番号:62h)、PSU FAN2(センサ番号:78h)です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 3Bh、62h、78h 3つ

- **冗長電源ユニットを1台のみ搭載時に登録されるセンサ故障のログについて**

冗長電源ユニットを搭載し、増設用冗長電源ユニットを搭載しない構成(※)で装置を起動すると、下記3つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

※例: CASNAVI 上T110mにて下記電源構成を選択された場合

標準電源ユニット : 冗長電源ユニット [N8181-183]

増設用冗長電源ユニット : なし

センサ故障が登録されるセンサは、PSU2 Temp1(センサ番号: 3Bh)、Power Supply 2(センサ番号: 62h)、PSU FAN2(センサ番号: 78h)です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 3Bh、62h、78h

2. BMCファームウェアのバージョン 00.90、00.92、00.97が適用された本体装置の注意事項

- オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源のワット数を越えた値を示す場合について
オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源ユニットのワット数を越えた値を示す場合があります。

N8181-181 電源ユニット: 250W

N8181-177 電源ユニット: 500W

N8181-182/183 冗長電源ユニット: 550W

N8181-184 増設用冗長電源ユニット: 550W

使用している電源ユニットにて、上記の値を越えている場合、同画面内のReset “Power Consumption” Statisticsを実行して、履歴をクリアしてください。

- **IPMI over LAN設定がDisableでShared LAN設定を行うと、Network設定の取得/変更ができない場合について**

IPMI over LANがDisable(出荷時のデフォルト設定)の設定でオフラインツールからShared LANを有効にした場合、BMCリセットすると以降オフラインツール上でネットワーク設定の取得/変更ができなくなります。本現象が発生した場合、以下の手順で対応してください。

- ・ BMC管理コンソールにログイン：
一時的に IPMI over LAN設定をEnableにすることでネットワーク設定の参照/変更が可能となります。
- ・ BMC管理コンソールにログインできない場合：
オフラインツールのServer Configurationにて、BMC > Configuration Initializationを実行し工場出荷時設定に戻した後に、再設定してください。

3. BMCファームウェアのバージョン 00.90、00.92、00.97、01.00が適用された本体装置の注意事項

- **Windows Server 2019/2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてHID準拠マウスデバイスに「！」が表示される場合について**

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. 次のいずれかの方法でBMC RESETを実行する。
 - ・ 本体装置のBMC RESETスイッチを押す。
 - ・ BMC管理コンソールから「メンテナンス」-「システム操作」-「BMCリセット」を選択する。
2. BMCリセットが完了した後、仮想KVMビューアの再接続を行う。

BMCリセットが完了したことを確認するには、ステータスランプ1と2が両方点灯し、その後ステータスランプ1のみが点灯していることを確認してください。またはBMCリセット実行後3分待つてからBMC管理コンソールに接続できることを確認してください。STATUSランプの詳細については、本製品のユーザーズガイドをご参照ください。

- **Windows Server 2019/2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてVirtual Mouse Gadgetに「HIDキーボードデバイス」が表示される場合について
(「表示(V)」にて「デバイス(コンテナ別)(C)」を選択時)**

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. デバイスマネージャーを開き、Virtual Mouse Gadgetの「HIDキーボードデバイス」を選択します。
2. 右クリックして「デバイスのアンインストール(U)」を選択します。
3. 「操作(A)」メニューから「ハードウェア変更のスキャン(A)」を選択します。

現象が解消するまで同じ手順を繰り返し実施してください。

4. BIOSファームウェアのバージョン F03が適用された本体装置の注意事項

- **オンボードRAID コントローラー有効時、内蔵の光ディスクドライブにセットした一部のメディアから起動できない**

EXPRESSBUILDER DVD から起動するときは、USB接続の光ディスクドライブをご使用ください。内蔵の光ディスクドライブでは EXPRESSBUILDER DVD から起動できません。

対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF04以降に更新してください。

5. BIOSファームウェアのバージョン F03、F04が適用された本体装置の注意事項

- **システムイベントログ(SEL)に登録される「ファームウェア例外」について**
以下のログがシステムイベントログ(SEL)に登録される場合があります。
イベントジェネレータ：16h
イベント内容：その他 発生

マネージメントエンジンの状態変化を検出した

イベント詳細：ファームウェア例外

また、通報サービスでは、上記のログに対し以下の内容が通報されます。

ファームウェア例外を検出しました。

拡張エラーコード：0x01

センサ番号：17h

位置：Management Controller Firmware 0

本イベントは誤った検出です。動作上の影響はありませんが、対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF05以降に更新してください。

6. BIOSファームウェアのバージョン F03、F04、F05が適用された本体装置の注意事項

● メモリボードの動作周波数が2000MHzとなる場合について

2025年10月中旬以降、下記メモリボードについてサポート対象ベンダーが追加されます。

-N8102-757：16GB増設メモリボード(1x16GB/U)

16GB Unbuffered DIMM, DDR5-4400, ECC 付き

-N8102-758：32GB増設メモリボード(1x32GB/U)

32GB Unbuffered DIMM, DDR5-4400, ECC 付き

F53より古いBIOSで異なるベンダーのメモリボードが搭載された場合、メモリボードの動作周波数が2000MHzとなる場合があります。対策としてはBIOSファームウェアのバージョンF53以降に更新してください。

メモリボード動作周波数の確認方法は、本製品のメンテナンスガイド(2章 便利な機能-1.2.1 Main)をご参照下さい。本製品のメンテナンスガイドの入手方法については、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。

7. EXPRESSBUILDER バージョン：7.10-022.01が適用された本体装置の注意事項

● Windows Server 2025プリインストールモデルをご購入された場合のインストレーションガイドの入手方法について

(本体型番：N8100-3021/3022/3023/3021S01は対象外です)

Windows Server 2025の各種設定、再インストール手順に関しては、以下のNECサポートポータルサイトからインストレーションガイドをご参照ください。

・ Express5800/T110m, T110m-S Windows Server 2025 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109880>

→ インストレーションガイド(Windows Server 2025 プリインストール製品編)

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめの上、お問い合わせください。

